

菊花の候に思う

愛知県退職校長会 副会長 川本文彦



今年も稲刈が終ったところから、大輪の菊が咲き始めた。赤紫・黄・白など色とりどりに十七種百五十個ほど、人の顔くらい大きな花が咲きそうと壮観である。

菊は奈良時代に中国から伝来して各時代を経て、江戸時代には品種の改良が進み、北斎や豊広の浮世絵に見られるように大輪の壮麗な菊が咲いていたと思われる。菊を愛する人々の努力によって品種や栽培技術の改良を重ね、このような立派な菊を咲かせるに至ったことに感動を覚える。体験してみても分かったことは、言うまでもなく土壌が基本的に良いこと。それと芽葉の状態を毎日観察して菊の健康状態を的確に把握して、給水・施肥・消毒を適宜行うことである。挿し芽以後、手拔きのない世話の結果、大輪の菊花として成果がもたらされる。

この「育てる」ことが、人間になると同様に難しい。一生を教育に捧げた退職校長の一人として残念に思う報道が多い。自分が教室で教えた子供たちが親になり、その親の子が子供を生んで育てている。教え子の親たちやその子供たちが、

尊い命を奪うような犯罪を犯している。私は報道を知る度に、自分の教え子が迷惑をかけたのではないかと心を痛めている。このような気遣いを死ぬまで行いつつ、教え子たちが学んだことを実行して幸福になって行つてほしいと願っている。

ところが、世相の変化とともに望ましくない施策が行われ、その結果、子供たちが大きな損失を被っていることがある。身近な問題であっても行政にかかわる場合は、退職校長として無力である。全国連合退職校長会はしっかりと組織で構成され、今年度初めて文科省へ意見具申の機会を得たという。私たちの県退職校長会でも組織化行動化の一步が始まった。私たちは帰属意識を明確化し、黄昏状態から脱却したい。

最近の教育の動向

八月三日、第二回正副会長・常任理事会において、県小中学校長会会長廣瀬一巳先生のお話をお聞きしました。

- ① 行政改革・公務員制度改革
- ② 教育改革
- ③ その他の課題

を三本柱とし、教育行政・学校現場のタッチロール、地域・学校間格差等現場の抱える今日的諸課題を的確にご説明いただきました。

今後こうした機会を積極的に持ち、本会活動の更なる充実を目指したいと考えています。



(熱心に話される廣瀬会長)

平成十八年度全連退総会に参加して

愛知県退職校長会 副会長 古橋睦典

平成十八年度・第四十二回全国連合退職校長会総会が、去る六月九日、東京・両国の「江戸東京博物館ホール」で開催された。愛知県からは、県会長の岩間敏和先生、副会長の川本文彦先生、加藤善章先生と私の四名が出席した。

総会の挨拶で土橋莊司全連退会長は「今や国際的な知の競争時代を迎えた。教育はもとより知の基礎をつくることにある。そして、教育尊重の気運を高めるべきである」と強調された。

来賓祝辞は、前川文部科学省初等中等企画課長を皮切りに三名のご挨拶があった。

議事では、十七年度の会務報告、決算報告、十八年度の事業計画と予算・会則の一部改正・宣言が議決された。また、役員承認で、前副会長の三林貞夫先生に替わって県会長の岩間敏和先生が全連退副会長に就任された。午後は、首都大学学長・西澤潤一先生の「戦後教育の反省」と題する講演を拝聴した。教育に関する講演としては稀に見る感銘深いもので、総会に出席した値打ちを感じつつ、機会あれば、愛知の地でもう一度拝聴したいと思った。

全連退

「東海北陸地区協議会」報告

愛知県退職校長会 副会長 横井 隆

十月十一・十二日の両日、東陸福井大会が福井ワシントンホテルで開催された。

東海北陸地区会長をも兼ねる岩間敏和会長の司会により、現場支援をどうするか、会員名簿の作成をどうしているか、教育の日制定についての状況と問題点、国の施策等について充実した話し合いが持たれた。

とりわけ、教員免許状の更新については、現職教員の更新基準と方法、それに伴う指導力不足教員への対処、ペーパー免許状保有者の更新のあり方等いくつかの問題に対しては、学校と退職校長会との連携が必

要との認識で一致した。

さらに、教育の日が制定された地区では、各種イベントを実施しているが、そのとき子どもが「どう動いたか」が大切であり、子どもが企画から抜け落ちることのないようにという意見も出された。

土橋全連退会長からは、今日の教育の諸問題の解決に当たっては、子どもを見据え、課題をどう把握し、どう考えて実行するかという視点が大切だと強調された。

二日目は、市立郷土歴史博物館、旧福井藩主別邸養浩館を見学して研修を終えた。

生き生きライフ

フィルム写真は楽し

平成十六年度入会 岩田 忠夫

カメラを持つようになって、四十年以上になる。その間にいろいろな被写体を追いかけた。京都・奈良にはよく出かけた。薬師寺西塔の心礎に映る東塔は西塔が再建された今、二度と撮影することができない貴重な一枚である。また、蒸気機関車を追って三重県の関西線にもよく出かけた。冬の朝、真っ白な蒸気を吐きながら進む蒸気機関車は壮観であった。

モノクローム時代は、現像はすべて自宅で行った。今は、カラーの時代。自分で現像することもない。薬品の匂いのする部屋で徹夜で行ったのは、忘れることができないよき思い出である。

現在は、富士山を被写体としている。天気図を見、月の満ち欠けも確認しながら年に数回撮影に出かけている。一度もシャッターを切らずに帰ることもよくある。現像後、納得できないため処分してしまうものも数多くある。

そして、退職を機会に「富士に惹かれて」と題して作品展を行った。たくさんの方に様々な顔をした富士山を見ていただき、気をよくして二年に一度の開催を目標に努力している。

最近、デジタルカメラにフィルムカメラが押されつつ放しである。多くのメーカーは、フィルムカメラの製造を打ち切り、デジタルカメラに主力を注いでいる。確

かにデジタルカメラは便利だ。フィルムカメラが、行き着くところまで進歩してしまっただけということもあるかもしれない。しかし、フィルムカメラにはデジタルカメラにはない魅力がある。数年前から大判カメラを使い始めた。三脚に大判カメラをセットし、レンズを取り付け、冠布をかぶって構図を決め、ピントを合わせる。フィルムを装填し、露出を決めシャッターを切る。一枚撮影するのに五分から十分、いやそれ以上かかる場合もあるが、この時間が堪らなく楽しいのである。そして、現像所から出来上がってきたフィルムをみるときのあの気持ちは何とも言えない。

退職し、時間に余裕のある毎日である。スローライフが求められているときでもある。一枚一枚気持ちをこめ撮影し、そのできあがり待を待つ。実に楽しい時間が過ぎていく。

あとがき

退職校長会『会報』第15号ができあがりましたので、お送りします。

今後の予定

- 一月十八日(木) 役員選考委員会
 - 三月 二日(金) 正副会長・常任理事会
 - 三月十五日(木) 会計監査会
- 総 会

愛知県退職校長会事務局
名古屋市中区新栄一 四九の一〇
愛知県教育会館六階
愛知県小中学校長会事務局内
電話番号〇五二―二六―八二五二